

機関要件確認申請総括表(2019年度)

【提出日】

令和元年7月18日

【設置者】

設置者の名称	備考
学校法人 豊南学園	

【設置する大学等】

区分	機関要件 確認申請	備考
大学		
短期大学		
信州豊南短期大学	あり	
高等専門学校		

(注1)提出日現在の情報を黄色セルに記入願います。

(注2)機関要件確認申請欄には、「あり」又は「無」(予定を含む。)を記入願います。

(注3)設置する大学等について、学生募集停止した大学等であって修業年限を超えて在籍する学生等のみ在籍する等の特殊事情がある場合は、備考欄にその旨記入願います。

様式第1号

令和元年 7月18日

文部科学大臣 殿

[設置者の名称] 学校法人 豊南学園

[代表者の役職] 理事長 [代表者の氏名] 守隨 憲道

大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	信州豊南短期大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・ <u>短期大学</u> ・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	長野県上伊那郡辰野町中山72番地
学長又は校長の氏名	森本 健一
設置者の名称	学校法人 豊南学園
設置者の主たる事務所の所在地	東京都豊島区高松3-6-7
設置者の代表者の氏名	守隨 憲道
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.honan.ac.jp/about/

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第7条第1項の確認を申請します。

- ※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点(☑)を付けて下さい。
- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実に相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	法人本部・村上喜信	03-3959-5511	y-murakami@honan.ac.jp
第2号の1	信州豊南短期大学・白井 朗	0266-41-4411	a-shirai@honan.ac.jp
第2号の2	法人本部・村上喜信	03-3959-5511	y-murakami@honan.ac.jp
第2号の3	信州豊南短期大学・白井 朗	0266-41-4411	a-shirai@honan.ac.jp
第2号の4	法人本部・西本俊彦	03-3959-5511	t-nishimoto@honan.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☑）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	1,340,950,029 円	1,367,592,923 円	-26,642,894 円
申請2年度前の決算	1,342,960,702 円	1,377,556,345 円	-34,595,643 円
申請3年度前の決算	1,406,639,700 円	1,383,417,061 円	23,222,639 円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	2,207,468,414 円	1,306,047,342 円	901,421,072 円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	400 人	261 人	65%
前年度	400 人	244 人	61%
前々年度	400 人	222 人	55%

(IIの補足資料) 「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
現預金	普通預金	230,995,185 円
特定資産(積立金)	定期預金等	1,852,414,690 円
貯蔵品	教材用品等	814,924 円
未収入金	退職金交付金等	86,625,973 円
前払金	通勤交通費等	5,470,540 円
長期貸付金	入学支度金	26,575,844 円
立替金	特待生入学金等	4,271,258 円
仮払金	車両購入手付金	300,000 円
合計		2,207,468,414 円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期借入金	学園運営資金	921, 169, 000 円
長期未払金	空調リース債務	55, 215, 216 円
短期借入金	学園運営資金	54, 804, 000 円
前受金	入学金等	117, 210, 000 円
未払金	空調リース債務等	117, 388, 716 円
預り金	教職員源泉所得税等	9, 355, 451 円
旅行等預り金	学生預り金	30, 904, 959 円
合計		1, 306, 047, 342 円

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
		全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
言語コミュニケーション学科	夜・通信		5	38	43	7	
幼児教育学科	夜・通信		2	25	27	7	

(備考)
幼児教育学科は新課程移行初年度のため1年が新課程（学部共通科目2、専門科目10）、2年が旧課程（学部共通科目0、専門科目15）となっている。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員一覧」を学生に配布し、シラバス記載ページを明記し、確認させている。本学ホームページに公表している。

<https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2019jitumukakyouin.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

信州豊南短期大学ホームページにて理事の名簿を公表。

<https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2019rijimeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社社長、会社会長	4年 H30.5.27 ～ R4.5.26	経営の視点からの 学校運営
非常勤	弁護士	4年 H30.5.27 ～ R4.5.26	コンプライアンス の徹底
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

毎年、10月から教務委員会を中心に次年度のシラバス記入要領の見直しを行い、要領を定め11月中旬に全教職員に配布するとともに教員に対し説明会を開催し、よりよいシラバスの作成に向けた活動を行っている。シラバスとは何か、短期大学設置基準等による位置づけ、シラバス執筆前に各学科のDP、CP、APの十分な確認が必要であることなどを冒頭に述べている。

そのうえで、授業内容を表す「キーワード」、「授業内容及び方法」「授業の目標・到達目標」「授業計画・準備学習」「成績評価の方法・基準」「テキスト」「参考書等」「学生へのメッセージ・履修上の留意点」を記載したシラバスの作成を求めている。「授業計画・準備学習」の項目では1単位が45時間の学修内容をもって構成することを確認し、授業時間だけではない準備学習の重要性についても説明し執筆を依頼している。また、「成績評価の方法・基準」においては学習成果に基づく「ループリック」の作成を求め、「ループリック」による厳格な成績評価を求めている。「ループリック」そのものは現時点では公表してはいないが、これらの内容を踏まえて作成したシラバスは冊子にまとめて学生及び保護者に示している。原則として6月末までにはホームページを通じてすべての授業科目のシラバスを公表している。

授業計画書の公表方法 ホームページへの掲載及び冊子にまとめ配布
https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修意欲の把握は入学時の調査から開始。入学後にやってみたいこと、学びたいこと、目標、卒業時の理想像、それを達成するためには何が必要と考えるかなどを記入させ、担任を中心としたゼミ別の少人数履修指導を通じ、調査票をもとに一人一人の学生と話し合いながら履修科目を決定している。これらの指導を通じ学修意欲を確認し、学科で情報の共有を行っている。加えて授業時の学生の状況観察、授業内におけるアンケートや課題の提出、小テストの状況、発表等における積極性、授業評価アンケートによる当該科目の準備学習の時間の確認、出席状況等により学修意欲を把握している。すべての科目において「試験の上、単位認定を行う」ことの基本を確認し、シラバスに記載した試験方法、筆記試験、レポート、実技試験等のなかから適切な方法により実施している。試験前の1か月間の間にすべての授業科目において、シラバスを用い「成績評価の方法・基準」について改めて学生に説明することを教員に求めている。そのうえで試験を実施し、到達目標、成績評価の基準をもとに作成した「ループリック」を用い、厳格かつ適正に評価し、単位認定を行っている。また単位認定をどのように行ったのか、学科会で各教員に説明を求めるか適正であるかどうかの確認を実施している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生便覧の成績評価の項目に GPA を加え、GPA の仕組み、計算方法等について年度当初のガイダンスにおいて学生に説明を行っている。

本学の GPA 次のとおりである。

(成績評価と GPA)

標語		配 点	合否	1 単位当たりのグレード ポイント
秀	S	100点～90点	合格	4
優	A	89点～80点	合格	3
良	B	79点～70点	合格	2
可	C	69点～60点	合格	1
不可	F	59点～0点	不合格	0
放棄	/	—	—	—

●GPAの計算方法（学生便覧抜粋）

GPAは、学期ごとのGPA（以下「学期GPA」）と入学時から当該期までのGPA（以下「通算GPA」）の二種類とし、学期GPA及び通算GPAの計算は、次に定めるところによるものとし、計算値は少数点第3位以下を四捨五入して表記する。

(ア) 学期GPA

(当該期に評価を受けた科目のG P ×その科目の単位数) の総和
当該期の総履修登録単位数

(イ) 通算GPA

(各学期に評価を受けた科目のG P ×その科目の単位数) の総和
総履修登録単位数

各学科及びゼミ担任等は、以下のGPAの基準に基づく学生の学修指導の計画を策定し、学生の指導を行っていく。

また、GPAによる表彰や指導等の基準に関する原則についても説明し、これらをホームページにおいて公表している。GPAをもとに成績の分布状況を学期ごとに確認し、学科内での話し合いを経たうえで以下の基準に従い学生指導を実施している。

●GPAと学習指導

- ・1年次前期GPAが「1」未満の者への対応 ((ア) 学期GPA) — 後期履修登録までにゼミ担任が指導を行う。ゼミ担任に該当する者がいない場合、教務責任者（各学科の教務委員から選出）または副学科長等が指導を行うこととする。
- ・年間のGPAが「1」未満の者への対応 ((イ) 通算GPA) — 保証人同席の上、学科長が厳重注意を行うものとする。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ (<https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2019sikentanininteigpa.pdf>)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

言語コミュニケーション学科の卒業認定の方針は次のとおりである。

1. 「知識・理解」 — 社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。

(学習成果)

1-1 理解力 — 授業のテーマや問題の本質を的確にとらえ、正確に理解することができる。

1-2 専門知識 — 専門的な用語の意味や概念を正しく理解することができる。

1-3 教養 — 時事問題や社会マナーなど、社会人に必要な知識を習得することができる。

2. 「技能・表現」 — 社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。

(学習成果)

2-1 コミュニケーション能力 — 日本語や外国語を用いて、正確に、読み、書き、聞き、話すことができる。

2-2 情報リテラシー — コンピュータなどのICTを用いて、多様な情報を収集・分析して活用することができる。

2-3 資格取得 — 各種検定試験や資格試験に合格可能な知識を習得することができる。

3. 「思考・判断」 — さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。

(学習成果)

3-1 課題発見力 — さまざまな状況に際して、問題点や課題を発見することができる。

3-2 論理的思考力 — 情報や知識を多方向から論理的に分析することができる。

3-3 問題解決力 — 問題解決に必要な情報や知識を適切に選択することができる。

4. 「関心・意欲・態度」 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。

(学習成果)

4-1 主体性・規律性 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題について、自主的・自律的に学習することができる。

4-2 働きかける力・柔軟性 — 目標達成のために、他者と協力して行動することができる。

4-3 実行力・状況把握力 — 習得した知識や技能などを活用して、積極的に課題に取り組むことができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

幼児教育学科も言語コミュニケーション学科と同様に卒業認定に関する方針を定め適切に実施している。幼児教育学科の卒業認定の方針は以下のとおりである。

1. 倫理観—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。

(学習成果)

1-1 (子ども観) —子どもの主体性を尊重することができる。

1-2 (家庭・地域連携) —家庭や地域と連携するとともに社会的資源を活用する重要性を理解している。

1-3 (保育者の資質) —保育者として望ましい使命感・倫理観及び共感的な態度を身に附けている。

2. 知識及び理解—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。

(学習成果)

2-1 (保育の原理) —養護と教育が一体となって展開される保育について理解している。

2-2 (子ども理解) —子どもの心身の成長や発達に関する知識を有している。

2-3 (文化的教養) —発達に即した児童文化財（絵本や紙芝居等）を選択することができる。

3. 技能及び実践力—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。

(学習成果)

3-1 (専門的技能) —子どもの表現活動を支援する技能を有している。

3-2 (保育の計画力) —子ども及び環境に即した保育の計画を構想することができる。

3-3 (保育の応用力) —子ども一人ひとりに寄り沿った保育を展開することができる。

4. 論理的思考力—社会問題を広く把握・理解するとともに、自らの経験や思考を言語化し論理的に説明することができる。

4-1 (情報リテラシー) —書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析することができる。

4-2 (文章作成能力) —収集した情報及び獲得した知識・理解を用いて、論理的に思考し言語化することができる。

4-3 (発表力) —自らの体験や思考を順序立てて説明することができる。

5. 問題解決能力—自らの知識・技能・経験を活用しながら、様々な人々と協力して社会の発展に積極的に貢献することができる。

5-1 (自己省察力) —自らの知識・技能・経験を省察することができる。

5-2 (課題探究力) —社会に存在する諸課題を発見し、解決策を模索することができる。

5-3 (人間関係形成力) —様々な人々と協調・協働することができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

卒業の認定に関する
方針の公表

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	信州豊南短期大学
設置者名	学校法人 豊南学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php
財産目録	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php
事業報告書	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php
監事による監査報告(書)	https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_5.php

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:自己点検評価報告書をホームページにて公表 https://www.honan.ac.jp/about/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページにて公表 https://www.honan.ac.jp/about/
--

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 言語コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php ）
（概要） 言語コミュニケーション学科は広く教養を高め、専門の知識と技能を深く教授研究し、国際的視野と豊かな感性、コミュニケーション能力を有する社会人として、地域社会に貢献し、国際社会に雄飛する人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php ）
（概要） 1. 「知識・理解」— 社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。 (学習成果) 1-1 理解力 — 授業のテーマや問題の本質を的確にとらえ、正確に理解することができる。 1-2 専門知識 — 専門的な用語の意味や概念を正しく理解することができる。 1-3 教養 — 時事問題や社会マナーなど、社会人に必要な知識を習得することができる。 2. 「技能・表現」— 社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。 (学習成果) 2-1 コミュニケーション能力 — 日本語や外国語を用いて、正確に、読み、書き、聞き、話すことができる。 2-2 情報リテラシー — コンピュータなどのICTを用いて、多様な情報を収集・分析して活用することができる。 2-3 資格取得 — 各種検定試験や資格試験に合格可能な知識を習得することができる。 3. 「思考・判断」— さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。 (学習成果) 3-1 課題発見力 — さまざまな状況に際して、問題点や課題を発見することができる。 3-2 論理的思考力 — 情報や知識を多方向から論理的に分析することができる。 3-3 問題解決力 — 問題解決に必要な情報や知識を適切に選択することができる。 4. 「関心・意欲・態度」— 人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。 (学習成果) 4-1 主体性・規律性 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題について、自主的・自律的に学習することができる。 4-2 働きかける力・柔軟性 — 目標達成のために、他者と協力して行動することができる。 4-3 実行力・状況把握力 — 習得した知識や技能などを活用して、積極的に課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php

（概要）

言語コミュニケーション学科の教育課程は、教育目標を達成すべく、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 「知識・理解」

社会人として広く求められるキャリア教育の実践を通して、現代社会に貢献できる専門的な知識及び適応能力を養成する。

2. 「技能・表現」

社会人に求められるコミュニケーション能力、日本語・英語能力、及びパソコンを用いて情報を収集し、活用できる能力を習得させる。

3. 「思考・判断」

知識活用力、課題探究力、論理的思考力、表現力を総合的に活用する能力を養成する。

4. 「関心・意欲・態度」

人間、社会、文化などにかかわる諸問題に关心を持たせ、具体的・実践的に解決していくという意欲を育てる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php

）

（概要）

言語コミュニケーション学科では次のような学生を求めています。

1. 「知識・理解」

専門的な教養や知識を身につけるために必要となる、日本語、英語などの基礎学力を有している人。

2. 「技能・表現」

ことばによる豊かなコミュニケーション能力を身につけ、資格やスキルを生かして社会人として活躍したいという意欲を持つ人。

3. 「思考・判断」

適切な思考・判断力を持ち、自立した人間を目指す人。

4. 「関心・意欲・態度」

人間、社会、文化などに興味・関心を持ち、自分の問題として捉えることができる人。

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育学科

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php)

(概要)

幼児教育学科は広く教養を高め、専門の知識と技能を深く教授研究し、豊かな感性とコミュニケーション能力を有する社会人として、地域社会における幼児教育の振興に寄与する有為な人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php)

(概要)

1. 倫理観—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。

(学習成果)

1-1 (子ども観) —子どもの主体性を尊重することができる。

1-2 (家庭・地域連携) —家庭や地域と連携するとともに社会的資源を活用する重要性を理解している。

1-3 (保育者の資質) —保育者として望ましい使命感・倫理観及び共感的な態度を身につけている。

2. 知識及び理解—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。

(学習成果)

2-1 (保育の原理) —養護と教育が一体となって展開される保育について理解している。

2-2 (子ども理解) —子どもの心身の成長や発達に関する知識を有している。

2-3 (文化的教養) —発達に即した児童文化財（絵本や紙芝居 等）を選択することができる。

3. 技能及び実践力—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。

(学習成果)

3-1 (専門的技能) —子どもの表現活動を支援する技能を有している。

3-2 (保育の計画力) —子ども及び環境に即した保育の計画を構想することができる。

3-3 (保育の応用力) —子ども一人ひとりに寄り沿った保育を展開することができる。

4. 論理的思考力—社会問題を広く把握・理解するとともに、自らの経験や思考を言語化し論理的に説明することができる。

4-1 (情報リテラシー) —書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析することができる。

4-2 (文章作成能力) —収集した情報及び獲得した知識・理解を用いて、論理的に思考し言語化することができる。

4-3 (発表力) —自らの体験や思考を順序立てて説明することができる。

5. 問題解決能力—自らの知識・技能・経験を活用しながら、様々な人々と協力して社会の発展に積極的に貢献することができる。

5-1 (自己省察力) —自らの知識・技能・経験を省察することができる。

5-2 (課題探究力) —社会に存在する諸課題を発見し、解決策を模索することができる。

5-3 (人間関係形成力) —様々な人々と協調・協働することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php）

（概要）

幼児教育学科の教育課程は、教育目標を達成すべく、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 保育者としての使命感及び倫理観を身につけられるようにする。
2. 保育及び福祉に関する基礎的な知識を獲得し、仕事の実際について理解できるようにする。
3. 子どもをはじめ福祉を必要とする人々に対する保育及び福祉の実践力を習得できるようする。
4. 社会問題について把握・理解し、学んだ事柄をもとにして様々な人々とコミュニケーションをとる力を養う。
5. 幅広い選択科目を開講するとともに、ネイチャーゲームリーダーやキッズスポーツインストラクター、ピアヘルパー等の資格取得を奨励することにより、社会に貢献する力を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php）

（概要）

幼児教育学科では次のような学生を求めています。

1. 保育や幼児教育、福祉の担い手として主体的に学ぶ意欲のある人。
2. 自身の健康を維持管理することができ、短期大学での学びに対応できる基礎的学力のある人。
3. 仲間と協力し合えるコミュニケーション能力を有する人。
4. 積極的にボランティア経験を積み、子どもや福祉の現場への共感的理解を深めている人。
5. 音楽・図工（美術）・体育のいずれかに強い関心を持ち、保育の技能を高める努力をしている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
—	1人	—	—	—	—	—	人
言語コミュニケーション学科	—	4人	3人	1人	0人	0人	8人
幼児教育学科	—	3人	1人	2人	3人	0人	9人

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
—	1人	16人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4_2.php
------------------------------	--

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）								

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関するこ

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
言語コミュニケーション学科	100人	81人	81.0%	200人	168人	84.0%	一人	一人
幼児教育学科	100人	43人	43.0%	200人	93人	46.5%	一人	一人
合計	200人	124人	62.0%	400人	261人	65.3%	一人	一人

(備考)

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
言語コミュニケーション学科	人 48 (100%)	人 2 (4.2%)	人 43 (89.6%)	人 3 (6.2%)
幼児教育学科	人 36 (100%)	人 0 (0%)	人 36 (100%)	人 0 (0%)
合計	人 84 (100%)	人 2 (2.4%)	人 79 (94.0%)	人 3 (3.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
辰野町役場、安曇野市役所、JA 上伊那、諏訪大社、岡谷市職員（保育士）、南箕輪村職員（保育士）、おとぎ保育園、信学会幼稚園、緑ヶ丘敬愛幼稚園、長野県社会福祉事業団、東京都社会福祉事業団他

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
言語コミュニケーション学科	人 56 (100%)	人 46 (82.2%)	人 4 (7.1%)	人 4 (7.1%)	人 2 (3.6%)
幼児教育学科	人 44 (100%)	人 36 (81.8%)	人 2 (4.6%)	人 3 (6.8%)	人 3 (6.8%)
合計	人 100 (100%)	人 82 (82.0%)	人 6 (6.0%)	人 7 (7.0%)	人 5 (5.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関するこ

(概要)

本学の全学科の授業科目は「学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成」し、「学科に係る専門の学芸を教授し、職業又は実際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。」との短期大学設置基準に基づいています。

そのうえで入学者受け入れ方針により入学した学生に対し、教育課程編成方針に基づく適切な授業科目の配置、および教育により、卒業認定の方針に基づく学習の成果を獲得することができるよう教育を行っている。それぞれの科目の位置づけを明確にするとともに、当該科目の授業方法を定め、身に付けるべき能力を到達目標としてシラバスに明記し、示した成績評価の方法基準によって単位認定を行っている。

シラバスには授業内容を表す「キーワード」、「授業内容及び方法」「授業の目標・到達目標」「授業計画・準備学習」「成績評価の方法・基準」「テキスト」「参考書等」「学生へのメッセージ・履修上の留意点」を記載したシラバスの作成を求め、作成している。

「授業計画・準備学習」の項目では1単位が45時間の学修内容をもって構成することを確認し、授業時間だけではない準備学習の重要性について説明し執筆にあたっている。また、「成績評価の方法・基準」においては「ループリック」の作成を求め、それによる成績評価を求めている。「ループリック」そのものは現時点では公表してはいないが、これらの内容を踏まえて作成したシラバスは冊子にまとめて公表を行っている。同時にホームページを通じてすべての授業科目のシラバスを公表している。

また年間の授業計画は定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とし、15週にわたる期間を単位として授業を実施している。また、短期間に集中的に学ぶことにより高い効果の期待できる一部の科目については集中授業として、長期休業期間中に実施している。

なお、幼児教育学科の授業科目については教育職員免許法等の法令の定めにより、適切に配置している。

授業科目及び年間計画等についても、毎年点検評価を実施し、検討を加えている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

すべての授業科目において試験を実施し、到達目標（学習の成果に基づく）、成績評価の基準をもとに作成した「ループリック」を用い、厳格かつ適正に評価（成績評価は以下の表に基づく）し、単位認定を行い、両学科とも卒業要件単位の修得および以下の学習成果の獲得を持って卒業を認定している。

標語		配 点	合否	1単位当たりのグレード ポイント
秀	S	100点～90点	合格	4
優	A	89点～80点	合格	3
良	B	79点～70点	合格	2
可	C	69点～60点	合格	1
不可	F	59点～0点	不合格	0
放棄	/	—	—	—

言語コミュニケーション学科の卒業認定の方針は次のとおりである。

1. 「知識・理解」 — 社会に貢献できる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解していること。

(学習成果)

1-1 理解力 — 授業のテーマや問題の本質を的確にとらえ、正確に理解することができる。

1-2 専門知識 — 専門的な用語の意味や概念を正しく理解することができる。

1-3 教養 — 時事問題や社会マナーなど、社会人に必要な知識を習得することができる。

2. 「技能・表現」 — 社会に役立つ実用的なスキルや資格、情報リテラシーなどを習得し、社会人として必要とされる、豊かなコミュニケーション能力を有していること。

(学習成果)

2-1 コミュニケーション能力 — 日本語や外国語を用いて、正確に、読み、書き、聞き、話すことができる。

2-2 情報リテラシー — コンピュータなどのICTを用いて、多様な情報を収集・分析して活用することができる。

2-3 資格取得 — 各種検定試験や資格試験に合格可能な知識を習得することができる。

3. 「思考・判断」 — さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考え判断する能力を有していること。

(学習成果)

3-1 課題発見力 — さまざまな状況に際して、問題点や課題を発見することができる。

3-2 論理的思考力 — 情報や知識を多方向から論理的に分析することができる。

3-3 問題解決力 — 問題解決に必要な情報や知識を適切に選択することができる。

4. 「関心・意欲・態度」 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題に関心を持ち、積極的に他者に働きかけ、状況を把握しながら主体的に解決しようとする意欲を有していること。

(学習成果)

4-1 主体性・規律性 — 人間、社会、文化などにかかわる諸問題について、自主的・自律的に学習することができる。

4-2 働きかける力・柔軟性 — 目標達成のために、他者と協力して行動することができる。

4-3 実行力・状況把握力 — 習得した知識や技能などを活用して、積極的に課題に取り組むことができる。

この卒業認定の方針をもとに、ここに示す能力を身に付けるべく授業を実施し、その結果を適切に評価し、認定された修得単位数を踏まえて卒業の認定を行っている。各学科では教務委員が卒業認定の方針に合致しているかどうか、各シラバスをチェックし問題のある場合は修正を依頼している。

幼児教育学科も言語コミュニケーション学科と同様に卒業認定に関する方針を定め適切に実

施している。幼児教育学科の卒業認定の方針は以下のとおりである。

1. 倫理観—自主的に学び続ける姿勢と、保育者及び支援者として適切な使命感及び倫理観を持ち、子どもをはじめ支援を必要とする人々に共感的にかかわることができる。

(学習成果)

1-1 (子ども観) —子どもの主体性を尊重することができる。

1-2 (家庭・地域連携) 一家庭や地域と連携するとともに社会的資源を活用する重要性を理解している。

1-3 (保育者の資質) —保育者として望ましい使命感・倫理観及び共感的な態度を身につけている。

2. 知識及び理解—保育の本質を理解し、子どもの成長・発達及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を修得している。

(学習成果)

2-1 (保育の原理) —養護と教育が一体となって展開される保育について理解している。

2-2 (子ども理解) —子どもの心身の成長や発達に関する知識を有している。

2-3 (文化的教養) —発達に即した児童文化財(絵本や紙芝居等)を選択することができる。

3. 技能及び実践力—保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を有し、子どもをはじめ福祉を必要とする人々に寄り添った保育実践と支援を行うことができる。

(学習成果)

3-1 (専門的技能) —子どもの表現活動を支援する技能を有している。

3-2 (保育の計画力) —子ども及び環境に即した保育の計画を構想することができる。

3-3 (保育の応用力) —子ども一人ひとりに寄り沿った保育を展開することができる。

4. 論理的思考力—社会問題を広く把握・理解するとともに、自らの経験や思考を言語化し論理的に説明することができる。

4-1 (情報リテラシー) —書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析することができる。

4-2 (文章作成能力) —収集した情報及び獲得した知識・理解を用いて、論理的に思考し言語化することができる。

4-3 (発表力) —自らの体験や思考を順序立てて説明することができる。

5. 問題解決能力—自らの知識・技能・経験を活用しながら、様々な人々と協力して社会の発展に積極的に貢献することができる。

5-1 (自己省察力) —自らの知識・技能・経験を省察することができる。

5-2 (課題探究力) —社会に存在する諸課題を発見し、解決策を模索することができる。

5-3 (人間関係形成力) —様々な人々と協調・協働することができる。

学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
言語コミュニケーション学科	62 単位	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	単位
幼児教育学科	62 単位	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	単位
G P Aの活用状況(任 意記載事項)	公表方法： https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/files/2019sikentanininteigpa.pdf		
学生の学修状況に係 る参考情報 (任意記載事項)	公表方法： https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関するこ

公表方法：https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_3.php

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
言語コミュニケーション学科	760,000 円	200,000 円	210,000 円	
幼児教育学科	760,000 円	200,000 円	210,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）修学支援は入学試験合格後に本学で実施する入学準備授業から始まる。卒業・学位授与の方針、教育課程編成の方針、単位制度（成績評価及びGPA制度等を含む）、教育課程（卒業要件）、特色ある授業科目、資格取得の説明等を行い、模擬授業を行い体験してもらう。単位制度についてはなぜ準備学習等が必要か詳細に説明する。その後、入学目的アンケートを実施し、入学直後のガイダンスでゼミ別に徹底した履修指導を行う。その後に2週間に1回開催される学科会で学生の学習状況の確認を行い、情報共有し、問題のある学生については面談を行い、修学指導を行っている。また保護者全員に短大生活全般、進路等の相談希望を募り、5月下旬に希望のある保護者と個別相談を実施し、その後に相談記録の情報共有を行っている。日常的には学生全員が必ずゼミに所属していることから、ゼミ終了後、またはオフィスアワーを利用し面談を行っている。これとは別に学生相談室が用意され、保健師またはカウンセラーが状況に応じ、授業に出られない等々の相談を受け適切に対応している。これらの情報も学生からの特別の申し出があるものを除き、情報共有を行っている。ただし、手取り足取りの指導ではなく、原則として相談に応じ学生自らが考える時間を確保し、自らの力で改善していくよう背中を押していくことを基本としている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）教職員で作る進路指導委員会、職員のみで構成するキャリア支援室を設置し、進路選択に関する支援を行っている。この二つの組織の役割等を明確にしたうえで、状況に応じ役割を超えた部分で協力し、年間の進路指導計画の立案実行、日々の学生相談、就職先へのアンケートの実施、メインではないが卒業生の指導も行っている。また、ハローワーク、ジョブカフェ信州と協力関係を結び、専門的立場からの進路指導講和、個別相談も学内で実施。また保護者の果たす役割も重要であるとの認識から、1年次に保護者アンケートを実施し、必要に応じ相談会も行っている。その際は入学目的アンケートに本人が記載した内容等も参考にし、話し合いを行い、指導の参考にしている。進路指導委員会には編入学等を専門に担当する者を配置し、進学についてはカリキュラム等との関係もあり編入学等担当者が直接担当している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）学内に保健室を設置し、保健師が常駐している。定期健康診断の実施に始まり、日々の体調不良等への対応、辰野町総合病院との連携協力、個別相談を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

言語コミュニケーション学科

実務家教員名	実務経験	区分	授業科目名	授業形態	学部等共通科目	専門教育科目	省令で定める基準相当分
吉永 元信	国立国会図書館職員	専門教育科目	情報資源組織演習Ⅰ	演習		1	1
山口 和人	国立国会図書館職員	専門教育科目	情報サービス演習Ⅰ	演習		1	1
三輪 雅子	臨床心理士、カウンセラートして医療機関勤務	専門教育科目	課題探究ゼミ	演習	1		1
		専門教育科目	臨床心理学Ⅰ	講義		2	2
		専門教育科目	臨床心理学Ⅱ	講義		2	2
合計					1	6	7

幼児教育学科

実務家教員名	実務経験	区分	授業科目名	授業形態	学部等共通科目	専門教育科目	省令で定める基準相当分
佐藤 幸子	京都市児童館勤務	専門教育科目	保育実践演習Ⅰ	演習		1	1
向山 れい子	保育士・子育て支援センター勤務	専門教育科目	保育内容演習(人間関係)	演習		1	1
		専門教育科目	乳児保育Ⅱ	演習		1	1
		専門教育科目	保育相談支援	演習		1	1
川瀬 勝敏	児童養護施設設施設長	専門教育科目	社会的養護Ⅱ	演習		1	1
豊永 誠	長野県職員(福祉専門職)	専門教育科目	社会福祉	講義		2	2
合計					0	7	7

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報資源組織演習I	1	司書必修 (学校司書必修)	1年 後期	演習	吉永 元信

【キーワード】

情報資源組織法、目録法、メタデータ

【授業内容及び方法】

多様な情報資源に関する書誌データ・メタデータの作成、目録を構成する情報、データベースの構造の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

【授業の目標・到達目標】

この授業の目標は、情報資源組織化にかかる様々な情報資源の目録・メタデータの構造を理解し、書誌記述の方法を身につけることである。

(到達目標)

知識・理解：情報資源組織化にかかる目録法の構造を理解することができる。

技能・表現：多様な情報資源の書誌情報の作成の実践的技能を身につけることができる。

授業計画		準備学習(事後の学習、課題等は授業時に指示)
1週	目録演習の基本的学习について	テキスト①4章全体の理解
2週	和書目録記述の作成について	テキスト①4章3-(1)の理解
3週	演習(1)	テキスト②目録作業の予習
4週	演習(2)	テキスト②目録作業の予習
5週	演習(3)	テキスト②目録作業の予習
6週	演習(4)	テキスト②目録作業の予習
7週	演習(5)	テキスト②目録作業の予習
8週	演習(6)	テキスト②目録作業の予習
9週	標目の付与作業について	テキスト①4章4の理解
10週	標目の付与作業の演習	テキスト②標目付与の予習
11週	継続資料の目録記述の作成について	テキスト①4章3-(2)の理解
12週	演習(1)	テキスト②目録作業の予習
13週	演習(2)	テキスト②目録作業の予習
14週	その他の資料の目録記述の作成について	テキスト①4章3-(3)の理解
15週	演習(1)	テキスト②目録作業の予習

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)((100%))で評価。

知識・理解：定期試験(筆記)により目録法の構造を理解しているかを評価する。

技能・表現：定期試験(筆記)により書誌情報作成の実践的技能を評価する。

【テキスト】

「情報資源組織法」第2版、志保田務、高齢忠美著 第一法規出版

ISBN 978-4-474-05430-1

「資料組織法演習問題集」第一法規

ISBN 978-4-474-05528-5

【参考書等】

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

きっちり予習をして(予習をしないと理解できません)、授業に出席し、演習内容をよく理解すること

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報サービス演習Ⅰ	1	司書必修 (学校司書必修)	1年 後期	演習	山口 和人

【キーワード】

情報サービス、情報資源、レファレンスサービス、情報資源の探索

【授業内容及び方法】

情報サービスの設計から評価に至る業務と、利用者の質問に対する回答処理について、演習形式で行う。

【授業の目標・到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る業務の流れを理解し、情報探索能力の基本を身につけることを授業の目標とする。

知識・理解：情報サービスの各段階で行うべきこと、及びその手順を正確に理解する。

技能・表現：情報資源の探し方を会得し、情報要求に的確に回答することができるようになる。

関心・意欲・態度：情報探索に対する大きな関心をもって課題に取り組むことができる。

授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）
1週	情報サービスの設計と評価（1）	テキスト第1章の疑問点把握
2週	情報サービスの設計と評価（2）	テキスト第1章の疑問点把握
3週	情報サービス演習の準備（1）	テキスト第2章の疑問点把握
4週	情報サービス演習の準備（2）	テキスト第2章の疑問点把握
5週	情報資源の探し方	テキスト第3章の疑問点把握
6週	ウェブサイトの探し方（1）	テキスト第4章の疑問点把握
7週	ウェブサイトの探し方（2）	テキスト第4章の疑問点把握
8週	図書情報の探し方（1）	テキスト第5章の疑問点把握
9週	図書情報の探し方（2）	テキスト第5章の疑問点把握
10週	図書情報の探し方（3）	テキスト第5章の疑問点把握
11週	図書情報の探し方（4）	テキスト第5章の疑問点把握
12週	雑誌記事の探し方（1）	テキスト第6章の疑問点把握
13週	雑誌記事の探し方（2）	テキスト第6章の疑問点把握
14週	新聞記事の探し方（1）	テキスト第7章の疑問点把握
15週	新聞記事の探し方（2）	テキスト第7章の疑問点把握

【成績評価の方法・基準】

レポートで評価する。

【テキスト】

原田智子編著『情報サービス演習(改訂)』(現代図書館情報学シリーズ:7) 樹村房
ISBN 978-4-88367-267-7

【参考書等】

必要に応じ、資料を配布する。

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

「情報サービス論」の応用編です。「情報専門家」としての司書の資質を会得する重要な機会ですので、全力で臨んで下さい。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名				
課題探求ゼミ	1	必修	1年 後期	演習	三輪 雅子				
【キーワード】									
交流分析 自我状態 エゴグラム 構造分析 やり取り分析 ストローク 時間の構造化									
【授業内容及び方法】									
交流分析の基本的な考え方について学ぶ。交流分析は教育分野等でより良い人間関係を築くために導入されている方法である。教科書講読とワークを行い、ワークの結果を発表する。ワークでは自分自身について、身近な出来事について交流分析の手法を使って分析・解釈を行うことで体験的な理解を目指す。各自の興味に沿った臨床心理学関連の文献を検索し、読み込んで内容を理解、整理する。結果をレポートにまとめ、ゼミで発表する。									
【授業の目標・到達目標】									
この授業の目標は、交流分析の基本的知識について理解できる、交流分析を用いて身近な心理社会的課題を発見し、分析、考察し、解釈することができる能力を身につけることである。									
知識・理解：交流分析の基礎知識を理解することができます。									
思考・判断：身近な心理社会的課題を交流分析の手法を用いて分析、考察し、解釈することができます。									
関心・意欲・態度：個人が直面する心理社会的課題に交流分析の手法を用いて分析、考察、解釈することに意欲を持って取り組むことができます。									
授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）							
1週	オリエンテーション 交流分析とは	教科書 P1～P16 を読み、不明な単語を調べる。							
2週	教科書講読と演習 エゴグラム	教科書 P16～P18 を読み、不明な単語を調べる。							
3週	教科書講読と演習 構造分析	教科書 P19～P24 を読み、不明な単語を調べる。							
4週	教科書講読と演習 やりとり分析	教科書 P25～P37 を読み、不明な単語を調べる。							
5週	教科書講読と演習 ゲームとは	教科書 P38～P44 を読み、不明な単語を調べる。							
6週	教科書講読と演習 ゲーム分析	教科書 P45～P59 を読み、不明な単語を調べる。							
7週	脚本とは	教科書 P60～P63 を読み、不明な単語を調べる。							
8週	脚本分析	教科書 P64～P66 を読み、不明な単語を調べる。							
9週	ストローク	教科書 P67～P74 を読み、不明な単語を調べる。							
10週	時間の構造化	教科書 P75～P80 を読み、不明な単語を調べる。							
11週	ラケット・人生の基本的構え	教科書 P81～P92 を読み、不明な単語を調べる。							
12週	禁止令・ドライバー	教科書 P94～P100 を読み、不明な単語を調べる。							
13週	文献・資料の収集・整理	文献検索のための資料を読んでおく。							
14週	ブックレポート発表	ブックレポート発表ができるように準備する。							
15週	交流分析のまとめ	交流分析についてレポートにまとめておく。							
【成績評価の方法・基準】									
定期試験（レポート）40%、授業内での発表 30%、授業内のレポート 30%を併せて総合的に評価する。									
知識・理解…定期試験（レポート）、授業内のレポートにより、主要なキーワードを正しく理解して正確な説明ができるかを評価する。									
思考・判断……定期試験（レポート）、授業内での発表により、課題を論理的に分析し、課題解決のために必要な情報や知識を適切に使用できているかを評価する。									
関心・意欲・態度…授業内でのディスカッション、発表で他者と協力して課題に取り組むことができているかを評価する。定期試験（レポート）、授業内のレポートで課題に意欲的に取り組んでいるかを評価する。									
【テキスト】									
図解＆ワークでわかる・身につく初学者のための交流分析の基礎 中村 延江 / 片岡 ちなつ / 田副 真美 2012 金子書房									
【参考書等】									
TA TODAY 最新交流分析入門 イアン・スチュアート / ヴァン・ジョインズ (翻訳) 深沢道子 1991 実務教育出版									
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】									
ブックレポートは各自で文献講読とレポート作成を進め、ゼミ発表を行う。自主的、積極的な取り組みが求められる。									

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
臨床心理学I	2	選択	2年 前期	講義	三輪 雅子

【キーワード】

心の構造と機能 フロイト 普遍的無意識 ユング 質問紙法 カウンセリング 自律訓練法

【授業内容及び方法】

臨床心理学の基礎知識について学ぶ。フロイトとユングによる古典的理論を通して、人間の心の基本的特性を概説する。パーソナリティテスト体験によって、自分自身の心理的特性を理解する。個人が直面する心理的問題への援助方法としてカウンセリングと自律訓練法を取り上げる。自律訓練法については体験学習を行う。現代社会における心理社会的課題について臨床心理学的視点から考察する。授業は配布プリントを用いて講義を行い、内容をプリントに記入しながら進める。振り返り用紙には講義内容について考えたこと、質問等を記入し、毎回プリントとともに提出する。次回授業で振り返りの結果を取り上げさらに理解を深める。

【授業の目標・到達目標】

この授業の目標は、臨床心理学の基礎知識を習得することである。とくにフロイトとユングによる臨床心理学の古典的理論体系について理解することができる、臨床心理学的視点から見た現代社会における心理社会的課題について考察する能力を身につけることである。

知識・理解：フロイトによる心の構造と機能、ユングによる普遍的無意識、個人の心理的問題への援助方法であるカウンセリングと自律訓練法の基本について理解することができる。

思考・判断：個人が直面する心理社会的課題について、また現代社会における心理社会的課題に気づき、臨床心理学的視点から考察し解釈することができる。

関心・意欲・態度：人間の心理的特性に関心を持ち、個人が直面する心理社会的課題に臨床心理学的視点を持って観察、分析、解釈することに意欲を持って取り組むことができる。

授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）
1週	臨床心理学とは	臨床心理学関連の資料を読んでおく。
2週	フロイトによる「心の構造と機能」	心の構造と機能について調べておく。
3週	フロイトによる「自我の防衛機能」	自我の防衛機能について調べておく。
4週	ユングによる「普遍的無意識」	普遍的無意識について調べておく。
5週	ユングによる「元型とイメージ」	元型とイメージについて調べておく。
6週	パーソナリティテスト体験：KT	KTについて調べておく。
7週	パーソナリティテスト体験：NEO	NEOについて調べておく。
8週	パーソナリティテスト体験：TEG	TEGについて調べておく。
9週	パーソナリティテスト体験：採点と解釈	パーソナリティテストを実施しておく。
10週	カウンセリング：基礎編	カウンセリングの基礎技法について調べておく。
11週	カウンセリング：応用編	カウンセリングの応用技法について調べておく。
12週	カウンセリング：事例検討	事例の資料を読んでおく。
13週	自律訓練法：基礎編	自律訓練法の基礎技法について調べておく。
14週	自律訓練法：応用編	自律訓練法の応用技法について調べておく。
15週	まとめ	資料・プリントを読み、疑問点を明らかにしておく。

【成績評価の方法・基準】

授業プリント 30%、心理テストトレポート 30%、定期試験（筆記）40%によって総合的に評価する。

知識・理解：定期試験（筆記）の用語解説問題によって基礎知識が正しく理解できているかを評価する。

思考・判断：定期試験（筆記）の論述問題によって個人が直面する心理社会的問題、現代社会の心理学的課題を論理的に考え解釈できているかを評価する。

関心・意欲・態度：授業時のプリント、レポートに積極的に取り組んでいるかを評価する。

【テキスト】 授業時にプリント、資料を配布する。

【参考書等】

臨床心理学ベーシック現代心理学 坂野雄二他 1996 有斐閣

はじめての臨床心理学 森谷寛之他 1996 北樹出版

よくわかる臨床心理学改定新版 下山晴彦 2009 ミネルヴァ書房

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

授業中に配布するプリントを使用して授業を進める。プリントは毎回必ず提出してチェックを受けること。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
臨床心理学II	2	選択	2年 後期	講義	三輪 雅子

【キーワード】

精神分析療法 来談者中心療法 認知行動療法 心理アセスメント 質問紙法 投映法 心の健康

【授業内容及び方法】

臨床心理学の基礎知識について学ぶ。心理的問題への援助方法として、代表的な心理療法である精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法を取り上げる。精神分析療法、来談者中心療法では適用事例を通して心理的アプローチの方法を学ぶ。認知行動療法は体験学習を行う。心理学的援助に際して行われる心理アセスメントの必要性と手法について解説する。パーソナリティテスト体験によって、自分自身の心理的特性を理解する。心の健康増進は大きな社会的課題であり、臨床心理学的視点から検討を加え、考察する。授業は配布プリントを用いて講義を行い、内容をプリントに記入しながら進める。振り返り用紙には講義内容について考えたこと、質問等を記入し、毎回プリントとともに提出する。次回授業で振り返り用紙から一部を解説し、さらに理解を深める。

【授業の目標・到達目標】

この授業の目標は、臨床心理学の基礎知識を習得することである。心理アセスメントと代表的な心理療法について理解することができる、臨床心理学的視点から見た現代社会における課題について考察する能力を身につけることである。

知識・理解：精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法、心理アセスメントについて理解することができる。

思考・判断：現代社会における心理社会的課題、心の健康増進について、実際に起こるさまざまな問題を発見し、臨床心理学的視点から考察し解釈することができる。

関心・意欲・態度：人間の心の基本的特性に関心を持ち、個人が直面する心理社会的課題と現代社会の心理学的課題に臨床心理学的視点を持って観察、分析、解釈することに意欲を持って取り組むことができる。

授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）
1週	精神分析療法：理論編	臨床心理学関連の資料を読んでおく。
2週	精神分析療法：応用編	心の構造と機能について調べておく。
3週	来談者中心療法：理論編	自我の防衛機能について調べておく。
4週	来談者中心療法：応用編	普遍的無意識について調べておく。
5週	来談者中心療法：事例検討	元型とイメージについて調べておく。
6週	パーソナリティテスト体験：PF スタディ	KTについて調べておく。
7週	パーソナリティテスト体験：PF スタディ 採点と解釈	NEOについて調べておく。
8週	パーソナリティテスト体験：SCT	TEGについて調べておく。
9週	パーソナリティテスト体験：SCT 採点と解釈	パーソナリティテストを実施しておく。
10週	心理アセスメント：面接法・観察法	カウンセリングの基礎技法について調べておく。
11週	心理アセスメント：質問紙法・投映法	カウンセリングの応用技法について調べておく。
12週	認知行動療法：理論編	事例の資料を読んでおく。
13週	認知行動療法：応用編	自律訓練法の基礎技法について調べておく。
14週	心の健康と精神障害	自律訓練法の応用技法について調べておく。
15週	まとめ	資料・プリントを読み、疑問点を明らかにしておく。

【成績評価の方法・基準】

授業プリント 30%、心理テストレポート 30%、定期試験（筆記）40%によって総合的に評価する。

知識・理解：定期試験（筆記）の用語解説問題によって基礎知識が正しく理解できているかを評価する。

思考・判断：定期試験（筆記）の論述問題によって個人が直面する心理社会的問題、現代社会の心理学的課題を論理的に考え解釈することができているかを評価する。

関心・意欲・態度：授業時のプリント、レポートに積極的に取り組んでいるかを評価する。

【テキスト】授業時にプリント、資料を配布する。

【参考書等】

臨床心理学ベーシック 現代心理学坂野雄二他 1996 有斐閣

はじめての臨床心理学森谷寛之他 1996 北樹出版

よくわかる臨床心理学改定新版下山晴彦 2009 ミネルヴァ書房

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

授業中に配布するプリントを使用して授業を進める。プリントは毎回必ず提出してチェックを受けること。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名		
保育実践演習Ⅰ	1	必修	2年 前期	演習	佐藤 幸子		
【キーワード】 子ども食堂・居場所・子育て支援・地域社会							
【授業内容及び方法】 書籍・新聞記事・ホームページ等による現状把握をしたうえで、子ども食堂にボランティア参加をする 参加報告書の作成や情報交換をすることで、後期の課題につなげる							
【授業の目標・到達目標】 この授業の目標は、子育て支援に関わる専門家として、子育て家庭に寄り添った支援のあり方を考えることである。この授業では、自らの体験を通して社会に貢献できるような能力を身に付けることを目指している。 <到達目標> 知識及び理解—子ども食堂について正しく理解することができる 技能及び実践力—子ども食堂で求められる技能とそれを活用する実践を行うことができる 問題解決能力—活動を通して、それぞれの特徴や課題を見つけることができる							
授業計画				準備学習 (事後の学習、課題等は授業時に指示)			
1週	「子ども食堂」について			子ども食堂について調べておく			
2週	活動計画			興味がある子ども食堂の活動について調べておく			
3週	情報収集 (国内や長野県の子ども食堂)			国内や長野県の子ども食堂を調べておく			
4週	情報収集 (近隣の子ども食堂など)			自宅や大学の近隣の子ども食堂を調べておく			
5週	文献研究			子ども食堂の意義などを考えておく			
6週	グループ活動①ボランティア参加 (学外)			参加できる子ども食堂を調べておく			
7週	グループ活動②ボランティア参加 (学外)			前回とは異なる場所を調べておく			
8週	グループ活動③			活動内容をまとめておく			
9週	活動報告・情報交換			情報交換ができるように準備しておく			
10週	今後の活動に向けて			参加した活動の反省をし、課題を考えておく			
11週	グループ活動④ボランティア参加 (学外)			参加できる子ども食堂を調べておく			
12週	グループ活動⑤			活動内容をまとめておく			
13週	活動報告書作成			活動報告と文献研究を復習しておく			
14週	活動報告発表			活動報告の準備をしておく			
15週	前期活動のまとめ・後期に向けての話し合い			ゼミとしての課題を考えておく			
【成績評価の方法・基準】 課題への取り組み 20% 活動計画書・ボランティア参加 70% 活動報告書 10% 知識及び理解：課題への取り組みで評価する 技能及び実践力：活動計画書・ボランティア参加及び参加回数で評価する 問題解決能力：活動報告書で評価する							
【テキスト】 必要に応じ資料を配布する。							
【参考書等】 『幼稚園教育要領』文部科学省『保育所保育指針』厚生労働省 「特定非営利活動法人NPOホットライン信州」ホームページ							
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもの居場所づくりの試みを調査・研究する目的で「子ども食堂」にボランティア参加します。積極的に参加する熱意のある学生を求めます。さらに、調査・研究したこと多く人に知ってもらう努力を望みます。							

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容演習 (人間関係)	1	必修	2年 前期	演習	向山れい子

【キーワード】

- ・保育者としての使命感倫理観を持つ。
- ・論理的思考力
- ・口頭発表力・記録力。グループワーク。

【授業内容及び方法】

人間関係の親しむ、支え合う、自立心の育ちは幼児期の人的影響は生涯にわたると言われる。自分自身を見つめ直し準備学習・テキスト・資料・記録・発表などの授業に積極的に取り組み、実践力へと繋げて行く。子ども理解、保護者理解を的確に行うために、グループワーク、検討発表、理論など、意欲的で具体的な学びを深める。

【授業の目標・到達目標】

倫理 表現…人としての育ちを大切に捉え、伝える。仲立ち・展開についての基本をしつかり身に付ける。子ども理解。

思考 判断…場面に即した発表・意見・聞き合い・柔軟な姿勢から乳幼児期の人との関わりの特性を考察する。

関心 意欲…社会情勢・子育て環境変化・物事に興味関心を持ち保育者としての具体的目標を明らかにし主張出来る。

問題解決能力…地域社会の担い手として、様々な人々との関わりを通して、人間関係の豊かさを身に付く。

授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）
1週	オリエンテーション・授業概・幼児教育の基本とは。	人間関係テキスト通読。人間関係で気になっている事。
2週	保育要領における幼児教育の捉え方、根幹について	テキストP12～21の中から要点内容を記録。
3週	環境を通しての教育・自分の名前の由来発表	自分の名前の由来を聞き、記録し発表出来る様にする。
4週	保育者の役割・領域「人間関係」と他領域との関係	保育者の様々な役割は何だと考えるか、記録。
5週	乳幼児の発達と領域、保育者、友達との関わり。	テキストP38～53を読み、要点を記録。
6週	友だちとのぶつかり。子どもの自己主張を支えるとは。	自分自身の幼少期を振り返り、トラブル内容の記録。
7週	子どものトラブルについて「GW」。心の安全基地とは。	子どもの自立を支える方法とは…記録（自分の考え）
8週	遊びの中の人との関わり。（育ち、共有 つくる）	P100～120を読み、疑問点を記録。
9週	家庭生活を通しての価値・ルールの学び	きょうだい、祖父母と関わりの内容（自分の考え）
10週	園生活での人の関わり。一人一人を理解する。	P147 この章で学ぶ事を記録。
11週	個と集団の関係。その楽しさ、協同性の育み	異なる思い P151事例6-3記録。
12週	人との関わりの視点（基盤、依存と自立 粘り強さ	P181事例「自分で出来たね」を記録しておく。
13週	協同性・道徳性・規範意識 社会生活との関わり	道徳性、規範意識とはどのような事だと思うか。
14週	現代の保育の課題と領域「人間関係」・現代社会と人。	現代社会の人との関りの喪失原因は何か、記録
15週	関わり喪失について発表。まとめ準備学習内容のGW	親のストレス、子どもは何を急がされていると思うか

【成績評価の方法・基準】

理解表現…準備学習・授業態度・課題への取り組み姿勢・意欲…20% 思考の判断…筆記試験 レポート記録・問題課題提起…60% 関心・意欲…発表、GWでの取り組み（意見・発表）…20% 等基本知識の習得等併せて総合的に評価する。

【テキスト】

新訂 事例で学ぶ保育内容 領域『人間関係』 無藤 隆 監修 岩立 京子 編者代表 萌文書林

【参考書等】

『新 保育所保育指針解説』厚生労働省 ・参考プリント配布。

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

情報化進展の現代社会は人間関係の希薄化が問題となっている。人との関りの重要性を日々の学生生活の中でも意識し、授業内容の課題に積極的、意欲的に取り組みましょう。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
乳児保育II	1	選択 (保育士必修)	2年 前期	演習	向山 れい子

【キーワード】

乳児保育は、人としての第1歩人格形成の基礎であり、何より命を守り育てるという使命感に根ざす。

【授業内容及び方法】

乳児の人との関わりは、言葉の代わりが泣く事などで、意思表示の理解や要求等の把握が難しくコミュニケーションを取りにくく感じる乳児理解を深めその重要性の探求、保護者と共に進める乳児保育のあり方を学ぶ。

乳児保育の重要性を理解・探求。乳児保育の実践力強化のアクティブラーニング対応の学びとする。(後半)

【授業の目標・到達目標】

知識・理解…乳児保育の重要性や保育者、養育者の関わりが生涯に影響を残す事を理解し実践力をつける。

技能・論理的思考…乳児保育の望ましい具体的保育方法の技術を、事例探求や論理的な裏付けを学ぶ。

倫理観…乳児保育は保護者家庭と深く関わり合うので、保育士業務内容の理解、その重要性を知る。

問題解決能力…自らの知識・技能・経験を省察する事が出来る。

授業計画		準備学習 (事後の学習、課題等は授業時に指示)
1週	オリエンテーション、授業概要。乳児保育の基本	準備学習としてテキスト通読。P 1 5までは必ず読む。
2週	「養護」の捉え。生命保持・情緒の安定とは。	自分の0～2歳の頃の様子をきいて記録しておく。
3週	子どもの主体性の尊重と自己の育ち。生命保持、情緒。	テキストP 2 0 情緒の安定観点の要点記録。
4週	子育ての現状と課題。0～2歳の発達の特徴と対応	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の記録(P 2 4)
5週	保護者支援、外国籍家庭等家庭の事情。準備学習発表	外国籍家庭の増加等、(新聞、テキスト、地域。)記録
6週	玩具の各自発表。0歳の一日の流れで考える遊び生活	0～2歳の発達を促す玩具を各自作り持ち寄る。
7週	成長発達を踏まえた生活、遊び・援助の実際。	P 4 6～6 5迄を読み、1、2、3、4、5要点記録。
8週	関りとその援助(保育者、親、子ども同士)	子どもの楽しみ方(P 5 8～6 3)まとめておく。
9週	心身の健康・安全への配慮・情緒の安定、虐待。	P 7 4～8 4を読み、要点を記録。
10週	集団での生活・環境の変化や移行における配慮	エピソードワーク、P 1 0 4(朝泣き)記録。
11週	乳児保育における長期・短期計画と実際。疑問点	疑問点があれば記録。P 9 1～9 6を予習。
12週	乳児の食事(ミルクも含む)ベーシックワーク離乳食	P 1 1 5～1 1 6を読んでおく。
13週	家庭との連携とその方法。食事について。	P 1 1 7 食事拒否Q 1、Q 2場面の記録。
14週	乳児の睡眠(基本・ぐずり)	P 1 3 7 Q 1、Q 2エピソードワーク記録
15週	乳児保育IIのまとめ復習、保護者の求めている事	P 1 7 4～最終迄を通読、記録しておく。

【成績評価の方法・基準】

知識・理解…準備学習・子ども理解 課題への意欲的取り組み等授業態度。…20%

技能及び実践力…乳児保育の活用、実践に向かう力…20%

思考の判断…レポート記録 定期筆記試験 基本知識の習得等総合的に評価する。…40%

【テキスト】

萌文書林

乳児保育II『一日の流れで考える 発達と個性に応じた保育実践』尾野明美 小湊真衣
菊池篤子

【参考書等】

千羽喜代子編著『乳児の保育』(萌文書林)『見る、考える。創り出す乳児保育』(萌文書林)

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

社会の変遷と共に乳児保育のあり方も変化の中、親と子の理解者である保育者の存在と責務の重さを意識し、意欲的に取り組みましょう。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育相談支援	1	選択 (保育士必修)	2年 後期	演習	向山れい子

【キーワード】

保育相談支援力。(子ども理解、子育て悩みの理解・支援内容具体的理解)・口頭発表・役割分担演習。・自分自身を知る。)

【授業内容及び方法】

- 1、子ども最善の利益に繋がる保育相談支援の在り方について理解を深める。
- 2、保育相談支援の基本的原則・方法・内容等、保護者支援の在り方について学ぶ。発表力、記録力を身に付ける。
- 3、諸理論、実際場面を通し、保育者としての保護者の養育力を高める方法を知る。

【授業の目標・到達目標】

- ・理解・表現…日常の保育を基盤とした、保護者支援の基本原則・方法・内容理解。子ども最善の利益に繋がる支援、実践力を身に付ける。・保育に根ざした保護者支援の在り方を理解。発表力。
- ・思考・判断…事例検討等を通して「聴く」、「伝える」、ひと其々の「思いの違い」に気付き、認め合う。
- ・関心・意欲…社会情勢・子育て変化・考え方興味関心を持ち、保育者としての具体的目標を明らかにする。

授業計画		準備学習(事後の学習、課題等は授業時に指示)
1週	オリエンテーション・授業概要説明・自己紹介発表・	シラバス・テキストの通読。自己紹介内容の記録。
2週	保育相談支援とは。保育相談支援の導入について。	保育相談支援についての捉えを各自記録して臨む。
3週	保育相談支援の歴史的変遷・意義。支援の対象。	保育所保育指針第6章を記して提示する。
4週	子ども最善の利益に繋がる保育相談支援とは何か。他。	テキスト予習、要点の記録。
5週	保育相談支援の実際と現状、事例から・保育士資格	保育士資格について、記録しておく。
6週	保育に基づいた保育士の行う保育相談業務・特性とは。	今までの人に受け止められたと思う場面、内容の記録・
7週	気になる親・子理解。援助の方向。事例。発達課題。	実習、体験などを通じて気になる親・子について記す。
8週	親の子育ての悩みの背景。心が和む支援の展開。	親の子育て不安とは何か。調査記録しておく。
9週	地域の子育て支援。保育所の行う支援役割特性。	テキストから、支援役割の内容下調べ。記録。
10週	支援にあたる保育者像。支援の具体的な展開過程。	自分の考える望ましい保育者像について記録。
11週	保育相談支援に必要な保育技術・展開・評価とは。	朝の受け入れの時、一番気をつけたい事とは。
12週	環境を通した保育相談支援とは。課題に即した方法。	環境とはどのような事か、各自記録して臨む。
13週	保育所機能活用の地域子育て支援・虐待通告義務	地域子育て支援施設・機関について調査記録。
14週	保育所の行う地域子育て支援の限界。	子育て支援についての疑問点・悩み等記録。
15週	保育相談支援計画作成例・復習・疑問点等のまとめ	親子にとって望ましい保育者としての目標を記録。

【成績評価の方法・基準】

受講態度・演習・発表課題への取り組み姿勢 20% ・レポート記録内容 20%。定期試験 60% 等併せて総合的に評価する。保育者としての使命感、倫理感、意欲、及び基本的知識の習得、社会情勢等への関心を寄せるなど、総合的に判断する。

【テキスト】

- ・柏女靈峰著『保育相談支援』ミネルヴァ書房 ・毎回資料配布

【参考書等】

- ・小林育子著『演習 保育相談支援』萌文書林
- ・長嶋るみ 前原寛 鈴木彬子 山内陽子共著『日常の保育を基盤とした子育て支援』 萌文書林

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

保育士の行う保育相談業務内容を学び、人として自分自身を見つめ直し意欲的な取り組みから実践力をつけましょう。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名				
社会的養護II	1	選択 (保育士必修)	1年 後期	演習	川瀬 勝敏				
【キーワード】									
子ども、家族、自立、相談、つながり。									
【授業内容及び方法】									
主に児童養護施設分野における児童への援助知識、援助技術の習得を目指し、講義、VTRから「レポート作成」「意見発表」によるまとめ、振り返り。									
【授業の目標・到達目標】									
この授業の目標はあらゆる子どもの最善の支援である。この授業を通じて、子どもの成長、発達の理解と良質な支援ができる保育士として能力の向上を目指している。									
技能・表現—子どもの背景や個々の特徴を理解した上で寄り添った支援を展開することができる。									
思考・判断—問題について、グループや他機関との連携により解決策を見つけることができる。									
関心・意欲・態度—準備学習から自分の考え、意見をまとめ、積極的に授業参加することができる。									
授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）							
1週	オリエンテーション	児童福祉のニュースや話題集め。							
2週	児童福祉施設における児童養護の現状	教科書 P72～77 を読み質問等をまとめておく。							
3週	発達保障と生活プログラム	教科書 P22～44 を読み質問等をまとめておく。							
4週	児童の権利擁護	教科書 P45～P56 を読み質問等をまとめておく。							
5週	乳児院と母子生活支援施設の暮らし	教科書 P86～P96 を読み質問等をまとめておく。							
6週	児童自立支援施設と児童心理治療施設	教科書 P111～P122 を読み質問等をまとめておく。							
7週	虐待を受けた子どもの支援	教科書 P158～163 を読み質問等をまとめておく。							
8週	子どもの問題行動への対応	教科書 P163～167 を読み質問等をまとめておく。							
9週	親子関係再構築の支援	教科書 P168～189 を読み質問等をまとめておく。							
10週	相談援助の知識・技術の活用	教科書 P190～223 を読み質問等をまとめておく。							
11週	里親制度の特徴とその実際	教科書 P131～138 を読み質問等をまとめておく。							
12週	里親養育の特徴	教科書 P138～141 を読み質問等をまとめておく。							
13週	施設の小規模化と地域連携	教科書 P226～247 を読み質問等をまとめておく。							
14週	地域連携と家庭支援	教科書 P226～241 を読み質問等をまとめておく。							
15週	支援者としての資質と倫理	教科書 P57～69 を読み質問等をまとめておく。							
【成績評価の方法・基準】									
授業態度や演習課題 30%、小レポート 30%、定期試験 40%を併せて総合的に評価する。									
技能・表現…子どもの発達に応じた支援技術を習得し、常に寄り添う支援を考えることができる。									
思考・判断…各授業テーマにおける課題や背景について考える基本姿勢を身に着けることができる。									
関心・意欲・態度…グループワーク、アンケートなど積極的に自ら考え方行動することができる。									
【テキスト】									
高橋一弘・村田紋子・吉田真理『社会的養護 II』萌文書林									
【参考書等】									
演習課題毎に資料配布予定									
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】									
子ども、家族が抱える問題を考え、より良い支援に結び付けるには、現状の課題を深く理解し、自分の考えと周りの意見を調整して解決につなげていくことが大事です。現場での実践から皆さんと一緒に考えていきたいと思います。									

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会福祉	2	選択 (保育士必修)	1年 後期	講義	豊永 誠

【キーワード】

貧困、児童虐待、家族の孤立、高齢者の介護、生存権

【授業内容及び方法】

現代日本は貧困、児童虐待、介護など深刻な社会問題に直面している。

子どもと家族の生活と権利を守る社会福祉のあり方と保育士の社会的役割について学ぶ。新聞記事を活用し生活問題の理解を深める。考察レポートで書く力、考える力、まとめる力を養う。

【授業の目標・到達目標】

子どもと家族の貧困、虐待、孤立、介護の福祉問題を理解し、社会福祉のあり方と保育士の役割を学ぶ。倫理観 保育士の使命感をもって学び基本的な知識と保育士の役割を理解できる。知識と理解 子どもや家族の福祉問題を理解できる。論理的思考力 生存権と生活を守る社会福祉の理念、歴史と制度、政策の特徴を理解できる。

授業計画		準備学習（事後の学習、課題等は授業時に指示）
1週	ガイダンス 社会福祉を学ぶ意義とは	社会福祉のイメージを考える
2週	少子高齢社会と社会福祉	第2回レジュメを読む
3週	貧困・生活困難の広がりと社会福祉	第3回レジュメを読む
4週	生存権保障としての生活保護制度	第4回レジュメを読む
5週	社会福祉の概念、理念と倫理	第5回レジュメを読む
6週	社会保障の概念と体系	第6回レジュメを読む
7週	日本における社会福祉の歴史	第7回レジュメを読む
8週	子ども家庭福祉の理念と家庭支援	第8回レジュメを読む
9週	子どもの貧困と虐待・家庭支援の方向性	第9回レジュメを読む
10週	障がい者福祉の理念と法体系	第10回レジュメを読む
11週	社会福祉の制度と法体系・実施機関	第11回レジュメを読む
12週	社会福祉施設と社会福祉の専門職	第12回レジュメを読む
13週	相談援助の意義と原則及び視点	第13回レジュメを読む
14週	相談援助の事例を通して学ぶ	第14回レジュメを読む
15週	福祉サービス利用者の権利擁護	第15回レジュメを読む

【成績評価の方法・基準】

授業時の考察レポート等の評価 30% 定期試験筆記の結果を 70% として総合的に評価する。知識・理解 試験の福祉用語等の解説問題により正しく理解できるか評価する。論理的思考力 試験の論述問題により、生活問題の理解と対応策への思考力があるかを評価する。倫理観 考察レポート等により、保育者としての使命感や意欲を評価する。

【テキスト】

「保育と社会福祉」橋本好市・宮田徹編集 みらい（第3版予定）

【参考書等】

「少子社会日本」山田昌弘著岩波新書 「子どもと貧困」朝日新聞取材班
朝日新聞出版 「殺さないで・児童虐待という犯罪」毎日新聞取材班 中央法規

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】

現代社会の福祉問題を直視して、保育士として何ができるのか自分の生活と結びつけて考える授業です。新聞記事に関心をもって下さい。

(2019.4.1現在)

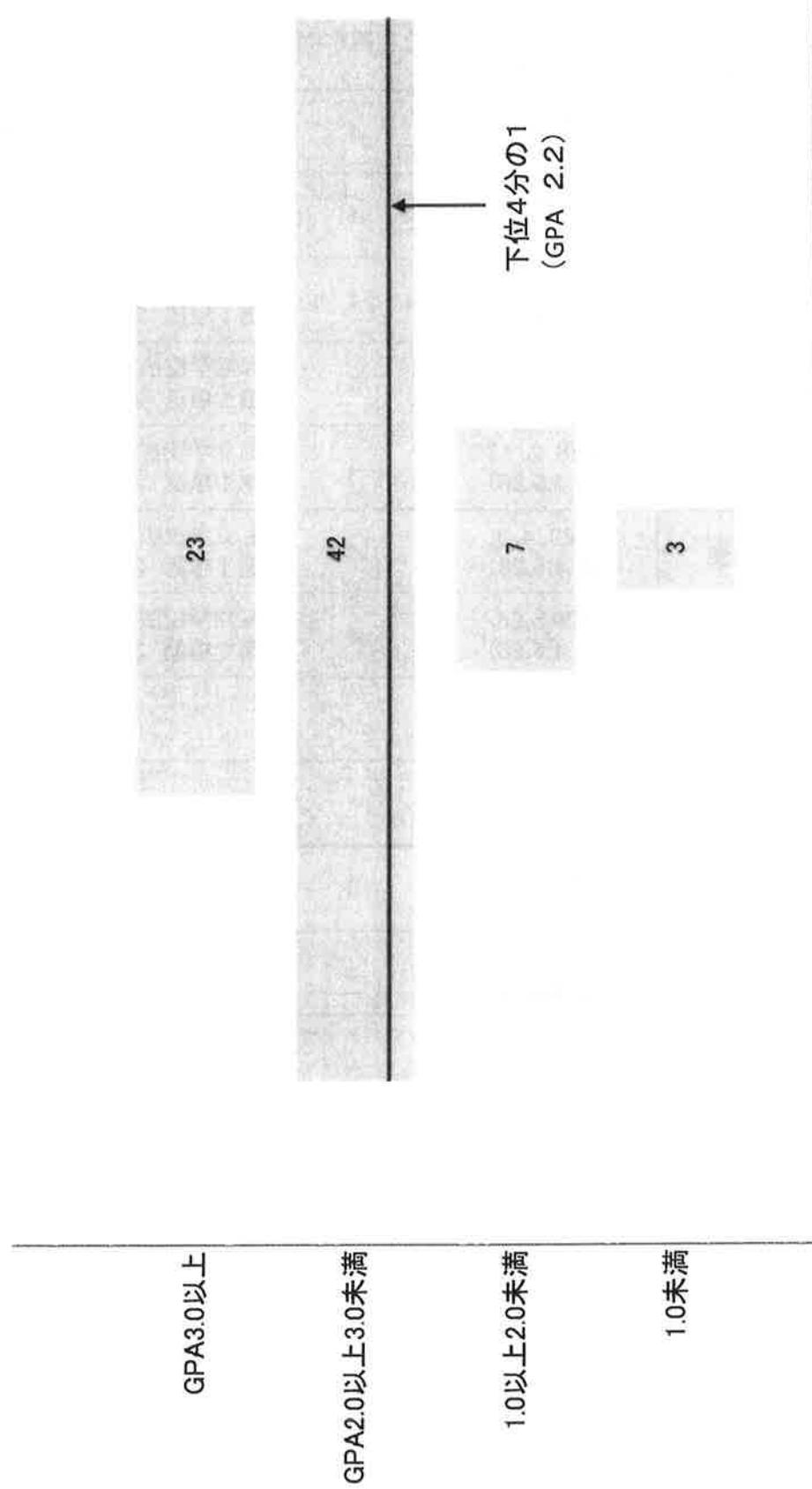
大学等の設置者の理事（役員）名簿

学校名 信州豊南短期大学

役員名	ふりがな 氏 名 (年齢)	就任年月日 (任期満了年月日)	任期(年)	選任区分	職業
理事長	しゅずい のりみち 守隨 奕道	H.30.5.27 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第1号	豊南高等学校長
理事	もりもと けんいち 森本 健一	H.19.4.1 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第2号	信州豊南短期大学 学長
理事	むらかみ よしのぶ 村上 喜信	H.30.5.27 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第2号	学校法人豊南学園 事務局長
理事	いしづか りょうじ 石坂 良嗣	H.28.4.1 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第3号	学校法人豊南学園 嘱託職員
理事	おぎはら しげる 荻原 茂	H.28.2.17 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第3号	
理事	いのうえ しゅん 井上 俊	H.20.4.1 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第3号	※外部理事 株式会社役員
理事	ねもと よしひさ 根本 義尚	H29.5.26 (R.4.5.26)	4	私立学校法第38条 第1項第3号	※外部理事 弁護士
計	定員 6~9人 現員 7人				
監事	さとう まさとも 佐藤 正知	H23.12.23 (R.4.5.26)	4		
監事	おおがく よしお 大賀 喜夫	H28.4.1 (R.4.5.26)	4		
計	定員 2人 現員 2人				

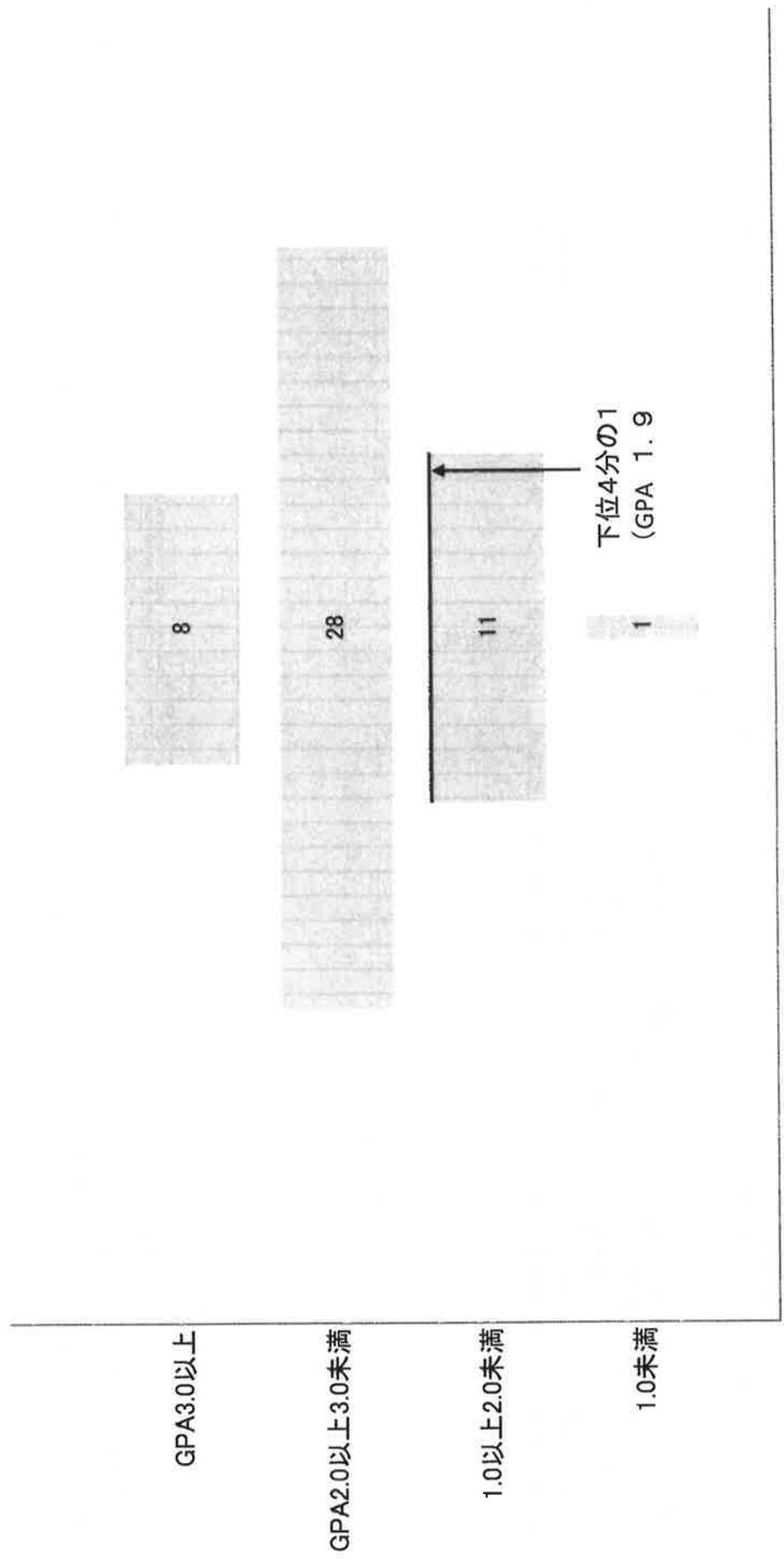
言語コミュニケーション学科 1学年(学生数75名)

GPAの数値の分布状況(単位:人)



幼兒教育学科 1学年(学生数48名)

GPAの数値の分布状況(単位:人)



下位4分の1以下:GPA1.98以下(12名)

科目		決 算
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	821, 161, 133
	授業料	542, 273, 300
	入学金	117, 552, 000
	実習料	4, 863, 333
	施設設備資金	153, 957, 000
	冷暖房	1, 378, 500
	施設維持	1, 137, 000
	手数料	23, 281, 750
	入学検定料	21, 228, 000
	試験料	244, 000
	証明手数料	697, 350
	休学手数料	310, 000
	その他の手数料	802, 400
	寄付金	634, 000
	特別寄付金	634, 000
	経常費等補助金	462, 962, 142
	国庫補助金	36, 857, 000
	都補助金	376, 071, 162
	長野県補助金	27, 280
	豊島区補助金	2, 581, 000
	都財団補助金	47, 425, 700
	付随事業収入	33, 445, 627
	補助活動収入	29, 171, 227
	公開講座収入	4, 274, 400
	雑収入	64, 963, 102
	施設設備利用料	1, 167, 972
	私学退職金団体交付金収入	50, 446, 086
	その他の雑収入	13, 349, 044
	教育活動収入計	1, 406, 447, 754
事業活動支出の部	人件費	978, 369, 512
	教員人件費	690, 580, 208
	職員人件費	187, 428, 776
	役員報酬	25, 120, 000
	退職金	54, 089, 506
	退職給与引当金繰入額	21, 151, 022
	教育研究経費	267, 963, 381
	消耗品費	10, 222, 324
	光熱水費	24, 422, 325
	旅費交通費	2, 410, 872
	奨学生費	26, 092, 672
	車輌燃料費	49, 405
	福利費	3, 502, 034
	通信運搬費	1, 701, 595
	印刷製本費	2, 290, 310
	出版物費	2, 795, 820
	修繕費	1, 520, 236
	損害保険料	1, 250, 584
	賃借料	22, 399, 486
	公租公課	715, 600
	諸会費	2, 265, 390
	報酬委託手数料	52, 291, 445
	学生生徒活動補助金	2, 508, 698
	公開講座費	1, 774, 322
	減価償却額	109, 704, 901
	雑費	45, 362
	管理経費	113, 361, 464
	消耗品費	2, 547, 776
	光熱水費	5, 789, 080
	旅費交通費	3, 575, 966
	車輌燃料費	345, 168
	福利費	2, 236, 989
	通信運搬費	2, 865, 421
	印刷製本費	417, 960

	出版物費	261,792
	修繕費	1,718,656
	損害保険料	1,028,032
	賃借料	5,985,259
	公租公課	5,673,900
	広報費	28,544,173
	諸会費	2,000,600
	会議費	413,245
	涉外費	861,353
	報酬委託手数料	21,189,910
	補助活動収入原価	19,193,570
	減価償却額	8,712,614
	徴収不能額等	21,488,842
	徴収不能額引当金繰入額	13,316,000
	徴収不能額	8,172,842
	教育活動支出計	1,381,183,199
	教育活動収支差額	25,264,555
教育活動外収支	受取利息・配当金	191,946
	その他の受取利息・配当金	191,946
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	191,946
	借入金等利息	2,233,862
事業活動	借入金利息	2,233,862
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	2,233,862
	教育活動外収支差額	-2,041,916
	経常収支差額	23,222,639
特別収支	資産売却差額	0
	その他の特別収入	0
	特別収入計	0
	資産処分差額	590,556
	機器備品処分差額	590,556
事業活動	その他の特別支出	0
	特別支出計	590,556
	特別収支差額	-590,556
		/
	〔予備費〕	/
	基本金組入前当年度収支差額	22,632,083
	基本金組入額合計	-232,354,081
	当年度収支差額	-209,721,998
	前年度繰越収支差額	-2,141,249,750
	基本金取崩額	784,260,889
	翌年度繰越収支差額	-1,566,710,859
	事業活動収入計	1,406,639,700
	事業活動支出計	1,384,007,617
	経常収入	1,406,639,700
	経常支出	1,383,417,061
	経常収支差額	23,222,639
	チェック	0

	科目	決 算
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	689, 660, 216
	授業料	457, 176, 216
	入学金	88, 428, 000
	実習料	3, 560, 000
	施設設備資金	137, 062, 500
	冷暖房	1, 372, 500
	施設維持	2, 061, 000
	手数料	26, 400, 850
	入学検定料	24, 592, 000
	試験料	149, 000
	証明手数料	703, 250
	休学手数料	155, 000
	その他の手数料	801, 600
	寄付金	470, 000
	特別寄付金	470, 000
	経常費等補助金	498, 211, 974
	国庫補助金	22, 838, 000
	都補助金	357, 816, 370
	長野県補助金	1, 718, 304
	豊島区補助金	2, 521, 000
	都財団補助金	113, 318, 300
	付随事業収入	23, 543, 759
	補助活動収入	23, 498, 759
	公開講座収入	45, 000
	雑収入	104, 215, 393
	施設設備利用料	1, 312, 488
	私学退職金団体交付金収入	100, 292, 384
	その他の雑収入	1, 001, 521
	徴収不能引当金戻入益	1, 609, 000
教育活動収支	教育活動収入計	1, 342, 502, 192
	人件費	979, 988, 366
	教員人件費	660, 553, 678
	職員人件費	188, 382, 006
	役員報酬	25, 735, 000
	退職金	104, 792, 384
	退職給与引当金繰入額	525, 298
	教育研究経費	262, 889, 609
	消耗品費	10, 246, 070
	光熱水費	24, 966, 779
	旅費交通費	3, 420, 786
	奨学生費	20, 746, 368
	車輌燃料費	36, 913
	福利費	3, 155, 051
	通信運搬費	1, 643, 982
	印刷製本費	2, 783, 116
	出版物費	3, 145, 314
	修繕費	1, 679, 410
	損害保険料	1, 159, 743
	賃借料	22, 017, 394
	公租公課	715, 000
	諸会費	2, 174, 622
	報酬委託手数料	38, 411, 949
	学生生徒活動補助金	1, 031, 754
	公開講座費	552, 070
	減価償却額	125, 001, 938
	雑費	1, 350
	管理経費	115, 808, 448
	消耗品費	4, 498, 839
	光熱水費	5, 599, 162
	旅費交通費	3, 435, 887
	車輌燃料費	428, 445
	福利費	1, 494, 987
	通信運搬費	2, 883, 672

	印刷製本費	408,240
	出版物費	238,762
	修繕費	1,746,426
	損害保険料	938,623
	賃借料	5,727,852
	公租公課	1,124,000
	広報費	31,486,949
	諸会費	1,811,180
	会議費	640,236
	涉外費	607,413
	報酬委託手数料	24,430,047
	補助活動収入原価	19,067,531
	私立大学等経常費補助金返還金	34,000
	解決金	500,000
	減価償却額	8,701,197
	雑費	5,000
	徴収不能額等	11,880,394
	徴収不能額引当金繰入額	6,810,000
	徴収不能額	5,070,394
	教育活動支出計	1,370,566,817
	教育活動収支差額	-28,064,625
教育活動外収支	受取利息・配当金	458,510
	その他の受取利息・配当金	458,510
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	458,510
事業活動外収支	借入金等利息	6,989,528
	借入金利息	6,989,528
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	6,989,528
	教育活動外収支差額	-6,531,018
	経常収支差額	-34,595,643
特別収支	資産売却差額	0
	その他の特別収入	2,026,300
	過年度修正額	2,026,300
	特別収入計	2,026,300
	資産処分差額	0
	その他の特別支出	140,009
	過年度修正額	140,009
	特別支出計	140,009
	特別収支差額	1,886,291
	/	/
	〔予備費〕	/
	基本金組入前当年度収支差額	-32,709,352
	基本金組入額合計	-146,329,937
	当年度収支差額	-179,039,289
	前年度繰越収支差額	-1,566,710,859
	基本金取崩額	0
	翌年度繰越収支差額	-1,745,750,148
	事業活動収入計	1,344,987,002
	事業活動支出計	1,377,696,354
	経常収入	1,342,960,702
	経常支出	1,377,556,345
	経常収支差額	-34,595,643
	チェック	0

科目		決 算
	学生生徒等納付金	707, 948, 332
	授 業 料	452, 385, 832
	入 学 金	102, 467, 000
	実 習 料	3, 678, 000
	施 設 設 備 資 金	112, 537, 000
	冷 暖 房	1, 545, 000
	施 設 維 持	3, 085, 500
	施 設 拡 充 資 金	32, 250, 000
	手数料	24, 356, 090
	入 学 檢 定 料	22, 272, 690
	試 驗 料	203, 000
	証 明 手 数 料	630, 400
	休 学 手 数 料	430, 000
	その他の手数料	820, 000
	寄付金	1, 154, 000
	特 別 寄 付 金	1, 154, 000
	経 常 費 等 補 助 金	491, 723, 463
	国 庫 補 助 金	29, 185, 000
	都 補 助 金	336, 733, 053
	長野県 補助金	29, 760
	豊島区 補助金	2, 522, 000
	都財団 補助金	123, 253, 650
	付隨事業収入	14, 429, 420
	補 助 活 動 収 入	14, 429, 420
	雑 収 入	100, 880, 530
	施設設備利用料	700, 254
	私学退職金団体交付金収入	78, 776, 702
	退職給与引当金戻入額	1, 709, 190
	その他の雑収入	8, 227, 384
	徴収不能引当金戻入益	11, 467, 000
	教育活動収入計	1, 340, 491, 835
事業活動支出の部	人件費	929, 006, 529
	教員人件費	653, 084, 787
	職員人件費	185, 370, 040
	役員報酬	11, 275, 000
	退職金	79, 276, 702
	教育研究経費	310, 710, 253
	消耗品費	11, 646, 216
	光熱水費	25, 371, 750
	旅費交通費	3, 926, 425
	奨学費	23, 376, 743
	車輌燃料費	40, 295
	福利費	3, 343, 621
	通信運搬費	2, 049, 627
	印刷製本費	2, 169, 101
	出版物費	4, 204, 904
	修繕費	2, 045, 869
	損害保険料	1, 121, 564
	賃借料	21, 674, 903
	公租公課	715, 000
事業活動支出の部	諸会費	2, 497, 435
	報酬委託手数料	84, 702, 878
	減価償却額	121, 793, 078
	雑費	30, 844
	管理経費	100, 362, 105
	消耗品費	2, 455, 177
	光熱水費	5, 936, 679
	旅費交通費	3, 238, 551
	車輌燃料費	463, 369
	福利費	1, 565, 567
	通信運搬費	2, 793, 324
	印刷製本費	419, 430
	出版物費	216, 083

収支計算書

事業活動支出の部

	修繕費	1,951,190
	損害保険料	955,842
	賃借料	5,669,499
	公租公課	990,340
	広報費	29,144,211
	諸会費	1,678,180
	会議費	579,146
	涉外費	612,685
	報酬委託手数料	23,169,460
	補助活動収入原価	8,949,688
	解決金	990,000
	減価償却額	8,583,684
	徴収不能額等	22,994,000
	徴収不能額引当金繰入額	3,382,000
	徴収不能額	19,612,000
	教育活動支出計	1,363,072,887
	教育活動収支差額	-22,581,052
教育活動外収支	受取利息・配当金	458,194
	その他の受取利息・配当金	458,194
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	458,194
	借入金等利息	4,520,036
	借入金利息	4,520,036
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	4,520,036
	教育活動外収支差額	-4,061,842
	経常収支差額	-26,642,894
特別収支	資産売却差額	0
	その他の特別収入	353,056
	過年度修正額	353,056
	特別収入計	353,056
	資産処分差額	200
	建物処分差額	200
	その他の特別支出	0
	特別支出計	200
	特別収支差額	352,856
	[予備費]	/
	基本金組入前当年度収支差額	-26,290,038
	基本金組入額合計	-76,248,562
	当年度収支差額	-102,538,600
	前年度繰越収支差額	-1,745,750,148
	基本金取崩額	0
	翌年度繰越収支差額	-1,848,288,748
	事業活動収入計	1,341,303,085
	事業活動支出計	1,367,593,123
	経常収入	1,340,950,029
	経常支出	1,367,592,923
	経常収支差額	-26,642,894
	チェック	0

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	8,808,335,013
有形 固定 資産	6,732,301,881
土 地	2,319,083,434
建 物	4,036,094,909
構 築 物	5,591,304
教育研究用機器備品	122,682,799
管理用機器備品	7,430,411
図 書	241,418,822
車 輛	202
特定資産	1,852,414,690
退職給与引当特定資産	155,047,122
減価償却引当特定資産	1,446,367,568
施設整備引当特定資産	251,000,000
その他の固定資産	223,618,442
借 地 権	194,401,470
電話加入権	2,183,784
長期貸付金	26,575,844
ソフトウェア	457,344
流动資産	328,477,880
現 金 預 金	230,995,185
未 収 入 金	86,625,973
貯 藏 品	814,924
前 払 金	5,470,540
立 替 金	4,271,258
仮 払 金	300,000
資産の部合計	9,136,812,893
負債の部	
固定負債	1,120,113,584
長期借入金	921,169,000
退職給与引当金	143,729,368
长期未払金	55,215,216
流动負債	329,663,126
短期借入金	54,804,000
未 払 金	117,388,716
前 受 金	117,210,000
預 り 金	9,355,451
旅行費等預り金	30,904,959
負債の部合計	1,449,776,710
純資産の部	
基本金	9,535,324,931
第1号 基本金	9,441,652,201
第4号 基本金	93,672,730
繰越収支差額	-1,848,288,748
翌年度繰越収支差額	-1,848,288,748
純資産の部合計	7,687,036,183
負債及び純資産の部合計	9,136,812,893
運用資産	2,207,468,414
外部負債	1,306,047,342
差額	901,421,072

令和元年度信州豊南短期大学が設置している学科等一覧

学科名	入学定員	備考
言語コミュニケーション学科	100名	
幼稚教育学科	100名	
計	200名	

